

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいてらす		
○保護者評価実施期間	令和6年10月21日	～	令和6年10月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20 (世帯数19)	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	令和6年10月21日	～	令和6年10月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年12月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な活動体験を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達に合った集団、個別での活動を毎日取り入れている ・長期休業中は課外活動を取り入れている 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達に応じて新たな活動を取り入れていく ・体を動かす活動を積極的に取り入れ、体育館、公園、運動器具を使用した活動を取り入れていく
2	療育課題が充実している	児童の特性、発達に応じた療育課題を提供し「できることを増やす」ことができるように支援をしている	児童が興味を持って楽しみながらできる療育を考えて行く
3	視覚的ツールが充実している	児童が理解しやすい伝え方を考えながら支援をしている	利用者の特性に合わせた解りやすい視覚的支援について全職員で常に考えながら支援をしていく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレントトレーニングを実施していない	職員が養育技術の知識を獲得できるような研修に参加できていない	ペアレントトレーニングを実施するために計画を立てて進めていく
2	相談が少ない	電話や送迎時の相談が多くなってしまっている	職員のスキルアップに繋がる研修に積極的に参加する保護者に対面での相談業務を勤める
3	インフォーマルなアセスメントと標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントの組み合わせを強化していく	インフォーマルなアセスメントだけでは職員の主観が影響を与えすぎではないか	標準化されたツールも活用していく